

 B. 各支部から

地域における小児保健活動を考える

—岡山県小児保健協会の活動—

岡山県小児保健協会支部長
岡山大学大学院保健学研究科

小 田 慈

岡山県支部（岡山県小児保健協会）は永年岡山県庁内に事務局（岡山県保健福祉部健康推進課が担当）を持ち、行政と協会が協力して運営・活動を行っている全国的にみても稀な組織である。理事会は、幅広く岡山県内のさまざまな医療・保健・福祉・教育・食育・行政関係組織の代表者、約30名で構成されている。この特徴と利点をより広汎に、かつ有効に生かし、岡山県に在住する子どもたちや保護者の権利の保護と生活の質の向上を目的として支部活動の一層の活性化を目指している。

内容を従来のものから一新した第53回 岡山県小児保健協会講演会は平成21年12月に開催された。プログラムは、岡山県小児保健協会総会、第1部 小児保健研究発表会（一般演題6題）、第2部 市民公開シンポジウム「インフルエンザの流行から子どもたちを守ろう！」（ウイルス専門家、行政担当者、保育士、養護教諭、小児科医師などさまざまな立場のシンポジスト5名）から構成され、会員のみならず一般市民の参加者の増加をと熱心な討議をもたらした。

近年、医療・保健・福祉・保育系の教育機関の4年制大学化、大学院化の波は続いている。従って小児保健の領域でも今後は従来とは異なった規模での教育・研究体制、そして得られた成果の社会への還元が求められている。岡山県小児保健協会講演会も従来の啓蒙活動的な講演会の場から、実際に現場で活動し、得られた教訓や実態の報告、教育・研究機関での研究成果の発表の場へ、そして、発表された内容をさまざまな職種の会員が皆で考え、より良い

形での社会への還元を図る場へとの一層のステップアップが要求されているように思われる。

第54回 岡山県小児保健協会講演会（平成22年12月開催）においても、行政、保健・福祉機関、大学、学校保健会などから多くの一般演題の応募があり、公開シンポジウム「児童虐待から小さな命を守ろう、そして親を犯罪者にしないために」では、小児科医、社会福祉・児童相談所、被虐待児支援、警察（事件捜査）それぞれの立場から4名の代表者がシンポジストとして講演の予定であり、多くの一般の方々の参加が見込まれている。岡山県小児保健協会の今後の活動の方向性は、コンセンサスが得られつつあると思われる。

一方、地方における小児医療体制の再構築は、現在、突きつけられている最重要課題であり、小児科医の小児保健活動への積極的な参加も切望されている。社会問題化している小児救急医療問題（時間外診療体制といってもいいかもしれない）、そして、このことからもたらされる病院勤務の若手小児科医の疲弊状態など、早急な対応が必要である。不要・不急の救急外来（時間外診療）受診者を減らし、適正な小児医療提供体制をもたらす意味においては、常日頃の小児科医はもとより、立場の異なった多職種の人材を含むチーム活動による一般保護者に対する小児の疾患、健康に関する正しい知識の提供と啓蒙活動が不可欠であろう。

すでに述べたように岡山県小児保健協会においては、行政と協会が協力して運営・活動を行い、岡山県内のさまざまな医療・保健・福祉・教育・食育・行政関係組織の代表者で理事会が構成されている。このことを最大限生かし、今後も小児保健活動を継続し、社会に貢献していきたい。

岡山県小児保健協会
〒700-8570 岡山県岡山市北区内山下2-4-6
岡山県保健福祉部健康推進課内